

地域情報通信基盤整備事業の工事が始まります。

配線状況を確認します

8月上旬から宅内工事の事前調査が始まります。事前調査では加入申し込みのあった世帯の地上デジタル放送およびインターネット用の配線状況確認や聞き取りを行います。訪問する際はあらかじめ電話にて訪問する日時をご連絡します。

身分証明書を持参します

事前調査には事業の請負業者である㈱NTT東日本―岩手が承認した会社の者が伺います。事前調査に伺う者は身分証明書を携帯していただきますので、ご確認ください。

土地利用・上空通過の同意にご協力ください

光ケーブル敷設のために工事が始まり、電力柱とNTT柱にケーブルを共架します。電柱の位置関係により土地の

上をケーブルが通過する場合があります。地権者の皆さまから柱の利用について同意が必要となりますので、ご承諾くださいますようお願いいたします。

問い合わせ先

総務課 職員情報班
(☎42-8714)



身分証明書 (見本)

2010 国勢調査 大槌町人口当てクイズ!

平成22年国勢調査(平成22年10月1日午前0時現在)の大槌町人口当てクイズを実施します。

【応募方法】

官製はがきに右記の内容を記入し、役場総務課まで送付してください。応募された人口予想数が、平成22年12月末に岩手県調査統計課が公表する要計表による大槌町人口に最も近い順に当選とします。ただし、同一順位が定数を超える場合は抽選により決定します(複数当選不可)。当選者は、「広報おうち平成23年2月号」に掲載する予定です。

応募資格 町内に居住している人
応募締切日 9月9日 ☎ ※当日消印有効
賞品 1等 1名(図書券3,000円分)
2等 2名(図書券2,000円分)
3等 6名(図書券1,000円分)



1万?千?百?十?人!
『?』を埋めて、
図書カードをGETしよう!

ヒント ~過去の大槌の人口総数~

平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
18,301人	17,480人	16,516人	1万?千?百?十?人

【応募はがきの書き方】

028-1192 大槌町役場 総務課内 平成22年国勢調査 大槌町実施本部	人口予想数 1? , ?? ? ? 人 (はがき1枚につき1点) ・郵便番号 ・住所 ・氏名 ・年齢 ・電話番号
---	---

(おもて)

(うら)

淡水型イトヨの学術的調査 新たな段階に

水型イトヨとして知られるようになった源水地区のイトヨ。平成19年2月には、「源水川の淡水型イトヨおよび生息地」が町の天然記念物に指定され、「淡水型イトヨを守る会」の方々を中心に、生息環境の保全も図られています。これまで調査研究に携わっていたら、イトヨを含むトゲウオ研究の第一人者、森誠一

岐阜経済大学教授から指導を得て、町行政や地域の方々によって生息環境の保全のため外来植物である「コカナダモ」の除去や、富栄養化が進み数十センチも堆積した砂泥の浚渫を行ってまいりました。

先月、森教授と福井県立大学の小北智之講師が独自調査のために来町。この折りに、森教授はイトヨ個体数は極めて増加し、またこれまでにならぬほど多くの営巣活動が活発に行われたと推定でき、今回も複数の営巣があることを確認しました。これは「水草除去や浚渫による効果の現れである」と話されました。

また、小北講師との共同研究が始まり、以下のような文章が寄せられています。

「私たちは、現在、日本産淡水型イトヨ集団間の形態・生態・行動の差異の進化的メカニズム(なぜ集団間で違う?)の解明を目指して研究しています。湧水域に生息する本州産の淡水型イトヨは、世界的なスケールで見ても、特異的な大変興味深い集団ですが、日本産の集団間においても、それぞれの

地域集団で異なった特徴を持っています。

私たちは、ハリヨ(特に岐阜産)が外見や性質において、究極的な淡水型イトヨであり、その一方の対極にある存在(陸封化の年代や外見において)が大槌産のイトヨであると考えています。つまり、同町産のイトヨは、わが国においてもともに遡河型(海)のイトヨに近い関係にあるといえるわけです。その意味において、大槌のイトヨは大変重要な生物学的意義をもった集団なのです。

しかし、その違いの詳細については、不明な点が多く残されています。現代の生物学的手法を駆使し、他の淡水型イトヨと詳細に比較することによって、形も含めた様々な特徴(例えば、生態や行動など)の違いがどのような要因(例えば、遺伝的背景や決まっているのかを検討できると期待しています。また、このような生態・行動レベルでの地域固有性の解明は、各集団の保全の必要性に新しい観点をもたらす、その方法においても大きな役割を果たすものになるはずだと思います。」

調査の進展については、随時お知らせします。また森教授による「淡水型イトヨを巡るお話」も広報紙などで紹介していく予定です。

井上ひさしさん お別れ会

去る4月9日に逝去された井上ひさしさんの「お別れ会が、東京丸の内「東京會館」で行われました。文学や演劇関係者など、200名を超える方々が集まりました。



遺影の前には、400冊を超える著作が並べられ、小曾根真さんのピアノで井上芳雄さんが「組曲虐殺」の歌を披露。

作家の丸谷才一さん、大江健三郎さん、演出家の栗山民也さんの三人が弔辞を述べられました。丸谷さんは「プロレタリア文学の最上者で、常に弱い者の見方だったと、また大江さんは「吉里吉里人に匹敵する最後の長編小説『一週間』は傑作である、人間を辱めてはならないという井上ひさしさんの思いが込められている」と話されました。

喪主の妻ユリさんが最後にあいさつ。「井上ひさしの仕事を次世代に伝えていきたい、井上ひさしは天才です」と。会場からは笑いが起こり、「泣くのはいやだ、笑っちゃおう」の想いが満たされているようでした。

なお、加藤町長と町観光協会事務局長の岡本英夫さんにも「案内をいただきました。」



森教授(右)と小北講師は、特殊な器具を用いて、調査のためイトヨの採捕を行いました。